

どんな所でどんな風に働いているの？

## 第4回

# 共に働くまちを創るべんきょう会



8月26日（木）6時半～9時半

越谷市中央市民会館5階

「いっしょに働く会」

人間の中村製作所の倒産を、新聞・TVでごらんになった方も、少なくないと思います。同社は、常勤78人のうち、職安から紹介された障害者を53人雇用、うち48人は重度知的障害者（臨時雇用を含めた従業員110人のうち80人が障害者）だと伝えられます。

この障害者の比率の大きいことは、授産施設・作業所のそれを上回るものです。それによって多額の助成金を受けてやりくりしてきたのが、工場買収等のため借り入れがかさみ、社長が失踪、倒産につながりました。

このような事件が起こると、常

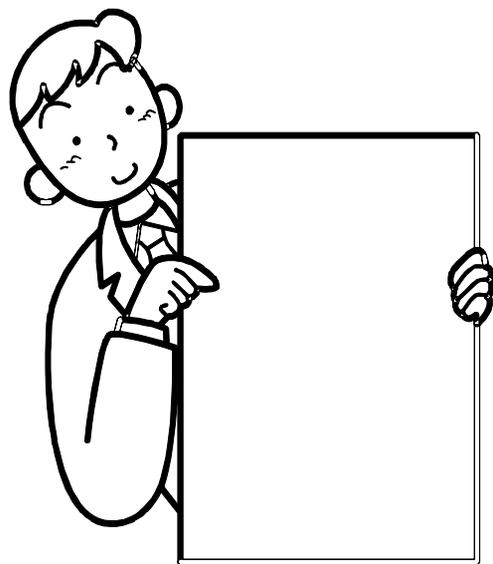
に事業主が障害者を食べ物にして…と槍玉に挙げられます。しかし、ひとつの会社に次から次へと障害者を送りこみ、受け皿として水ぶくれさせてきた職安や養護学校、またそれらにゲタを預けっぱなしでやってきた地元自治体と地域社会全体の問題として、とらえかえすべきです。

いちばん大事なこと、それでいていちばん伝わってこないことは、実際にさまざまな職場で働いている障害者、その同僚や事業主、家族などの日々の体験です。あちこちに分散している体験をつなげあうことからスタートしましょう。

（資料代・200円）

## 主催・障害者の職場参加を考える会

連絡先 TEL048-733-2743(デイケア・パタパタ内・一ノ瀬)



前回のべんきよう会では、障害者を雇った事業家の体験を話していただきました。今回は、実際に雇われて働いている人、働いていた人の体験を話していただきます。

医療費や福祉予算が膨れ上がったことがきっかけで、介護保険や基礎構造改革の動きが急に浮上したことから、「自立支援」とか「生活支援」を国も語るようになりました。

しかし、その「自立」や「生活」には、あいかわらず地域で共に育ち、共に働くことが欠けたままです。

じっさいには多くの障害を持つ子供たちが普通学級で学び、また地域のさまざまな職場に、主として知的な、あるいは精神的な障害を持つ人々が働いているというのに……。それは日常の中に溶け込んでいるからこそ、見えにくく、また特別な支援も考えにくいという実情があります。しかし、だからこそ、障害のない人々の生き方・働き方への問いかけをはらむ現実がそこにあるともいえます。

そういう体験を数多く伝え合いながら、福祉や保健の対象者とされてきた人々の一般職場への参

どんな所でどんな風に働いているの？

## 第4回

共に働くまちを創るべんきよう会

主催・障害者の職場参加を考える会

048-733-2743 (デイケア・パタパタ内 ノ瀬)

8月26日(木)  
午後6時半～9時半  
越谷市中央市民会館5階  
資料代・200円

(終了後、時間のある方は食事をしながらさらにおしゃべりしましょう。)

